

学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (①おぼろ月夜 ステップ1)

年 組 氏名

おぼろ月夜

作詞 高野辰之

菜の花ばたけに 入日うすれ

見わたす山のは かすみふかし

春風そよふく 空を見れば

ゆうづきかかりて においあわし

里わのほかげも 森の色も

田中のみちを たどる人も

かわずのなくねも かねの音も

さながらかすめる おぼろ月夜

「おぼろ月夜」の歌詞を声に出して読みましょう。読み終わったら、下のらんにていねいに写して書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (①おぼろ月夜 ステップ2)

年 組 氏名

「おぼろ月夜」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましよう。

おぼろ月夜 作詞 高野辰之

菜の花ばたけに 入日うすれ

見わたす山のは かすみふかし

春風そよふく 空を見れば

ゆうづきかかりて においあわし

里わのほかげも 森の色も

田中のこみちを たどる人も

かわずのなくねも かねの音も

さながらかすめる おぼろ月夜

○言葉の意味

入日：夕日

ふかし：深い

里わ 里のあたり

田中：田の中

さながら：すべて

山のは：山の尾根

あわし：あらい

ほかげ：あかり

かわず：かえる

「おぼろ月夜 鑑賞文のヒント」

○どの行も、八音と六音の組み合わせになっています。

○二番の歌詞では、「も」という言葉が何回も出てきます。

○題名の「おぼろ月夜」という言葉が、最後に出てきます。

そのほか

・視点の変化

・じっとしているものと動いているものの対比

・目で、耳で、鼻で、肌で感じたこと

などにも注目して、鑑賞文を書いてみましょう。

「おぼろ月夜」は、六年生で習う曲です。音楽の授業では、このワークシートで書いたことを思い浮かべながら、声に出して表現してみましょう。



学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (②われは海の子ステップ1)

年 組 氏名

<p>2</p> <p>生まれてしおに ゆあみして なみを子守りの 歌と聞き 千里よせくる 海の気を すいてわらべと なりにけり</p>	<p>1</p> <p>われは海の子 しらなみの さわぐいそべの 松原に けむりたなびく とまやこそ わがなつかしき すみかなれ</p>	<p>われは海の子 作詞不詳</p>
--	--	--------------------

「われは海の子」の歌詞を声に出して読みましょう。読み終わったら、下のらんにていねいに写して書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (②われは海の子ステップ2)

年 組 氏名

「われは海の子」の歌の歌詞には、昔のことは(文語)がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文(読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど)を書きましよう。

われは海の子 作詞不詳

1 われは海の子 しらなみの

さわぐいそべの 松原に

けむりたなびく とまやこそ

わがなつかしき すみかなれ

2 生まれてしおに ゆあみして

なみを子守りの 歌と聞き

千里よせくる 海の気を

すいてわらべと なりにけり

○言葉の意味

さわぐ…音をたてる

たなびく…ただよう

とまや…とまで屋根をふいた家

ゆあみ…ふろに入ること。

「われは海の子 鑑賞文のポイント」

○どの行も、七音と五音の組み合わせになっています。

○題名の「われは海の子」という言葉が、最初に出てきます。

○一番、二番ともに、二行目の歌詞からは、波の音が聞こえてきそうです。

そのほか

海の様子も想像しながら、鑑賞文を書いてみましょう。

「われは海の子」は、六年生で習う曲です。音楽の授業では、このワークシートで書いたことを思い浮かべながら、声に出して表現してみましよう。



学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (③ふるさと ステップ1)

年 組 氏名

「ふるさと」の歌詞を声に出して読みましよう、読み終わったら、下のらんにていねいに写して書きましよう。

ふるさと 高野辰之作詞

1 うさぎ追いし かの山

こぶなつりし かの川

夢は今も めぐりて

忘れがたき ふるさと

2 いかにいます 父母

つつがなきや ともがき

雨に風に つけても

思いいづる ふるさと

3 ころろざしを はたして

いつの日にか 帰らん

山は青き ふるさと

水は清き ふるさと

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (③ふるさと ステップ2)

年 組 氏名

ふるさと 高野辰之作詞

1 うさぎ追いし かの山

こぶなつりし かの川

夢は今も めぐりて

忘れがたき ふるさと

2 いかにいます 父母

つつがなきや ともがき

雨に風に つけても

思いいづる ふるさと

3 こころざしを はたして

いつの日にか 帰らん

山は青き ふるさと

水は清き ふるさと

○言葉の意味

追いし…追った

こぶな…小さいフナ

忘れがたき…忘れられない

いかに…どうして

つつがなき…ぶじである。

ともがき…友だち

帰らん…帰ろう

「ふるさと」の歌の歌詞には、昔のことは(文語)がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文(読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど)を書きましよう。

「ふるさと 鑑賞文のヒント」

○どの行も、六音と四音の組み合わせになっています。

○一番から三番の最後には、題名の「ふるさと」という言葉が出てきます。

三番では、「二度も」ふるさと「の言葉がくり返されています。

○一番では、昔のふるさとをなつかしんでいます。二番では、今のふるさとの人たちことを思っています。三番では、今後、目標をかなえてふるさとに帰ろうという思いを表しています。

そのほか

歌詞の中に出てくるふるさとの様子を想像しながら、

鑑賞文を書いてみましょう。

「ふるさと」は、六年生で習う曲です。音楽の授業では、このワークシートで書いたことを思い浮かべながら、声に出して表現してみましょう。

